

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	阿倍野区
学校名	阿倍野小学校
学校長名	田中 保

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・阿倍野小学校では、第6学年 99名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

[国語]

平均正答率は70%で、大阪府（公立）の65%、全国（公立）の66.8%を上回っており、非常に良好な結果です。

[算数]

平均正答率は64%で、大阪府（公立）の58%、全国（公立）の58%を大きく上回っており、非常に優れた結果です。

[理科]

平均正答率は60%で、大阪府（公立）の55%、全国（公立）の57.1%を上回っており、良好な結果です。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

成果:

「知識及び技能」のうち、「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」(80.8%) や「(3) 我が国の言語文化に関する事項」(86%) の平均正答率が高く、語彙や文法、文学的な知識が定着していることがうかがえます。特に、「(3) 我が国の言語文化に関する事項」は大阪府(80.9%)、全国(82.4%)を大きく上回る突出した結果です。

課題:

- 「思考力・判断力・表現力等」の領域の正答率は60.5%と、大阪府（公立）の61.4%や全国（公立）の64.8%を下回っています。この領域の中でも、特に「2三」の問題（詳しく書く問題）の正答率が60.5%と、大阪府(57.7%)、全国(61.3%)と比べて全国平均を下回っています。
- 「思考力・判断力・表現力等」と「知識及び技能」を比較すると、後者が圧倒的に高い正答率を示していることから、知識の活用や、自分の考えを文章で記述する力に課題が見られます。
- 児童質問紙によると、「解答を文章で書く問題」について「十分に解答できた」と答えた児童は85.4%、「あまり解答できなかった」は12.4%で、回答に手ごたえを感じている児童が多い一方、記述問題に苦手意識を持つ児童も一定数います。

[算数]

成果:

「学習指導要領の領域」の全領域（A「数と計算」、B「図形」、C「測定」、D「数量関係」）で、大阪府（公立）および全国（公立）の平均正答率を上回っています。特に「A 数と計算」の平均正答率が70.1%と高く、計算力や数の概念理解が非常に優れていることがわかります。

課題:

- 「3 (2)」の問題（分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つかを数や言葉を用いて記述する問題）の正答率は30.2%と、全国（公立）の23%を上回るもの、全体の平均と比べると低い傾向にあります。
- 「3 (3)」の問題（数直線上での分数の理解）の正答率も43%と、同様にやや低い傾向が見られます。
- 児童質問紙によると、「言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題」について「十分に解答できた」と回答した児童が67.4%、「あまり解答できなかった」が27.9%であり、記述式の問題に苦手意識を持つ児童が国語よりも多いことが分かります。

【理科】

成果:

「学習指導要領の区分・領域」の全領域（A区分「エネルギー」「粒子」、B区分「生命」、C区分「地球」）で、大阪府（公立）および全国（公立）の平均正答率を上回っており、特に「B区分（生命）」の平均正答率は57%と、大阪府（49%）、全国（52%）を大きく上回っています。これは、生物分野への興味・関心が高いことや、観察・実験を通じた学びが定着していることを示唆します。

課題:

● 「3 (1)」の問題（差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現する問題）の正答率は14%と、大阪府（公立）の25.6%、全国（公立）の29.9%を大きく下回っています。この結果は、既習の知識を用いて、自ら課題を設定し、探究していく力に改善の余地があることを示しています。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」の質問には肯定的に回答する児童の割合が91%であり全国よりも4.1%上回っていた。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問には肯定的な回答が97.7%となっており、全国より5.5%上回っている。「5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問には「ほぼ毎日」「週3日以上」と回答する児童の割合が71.9%であり全国より0.2%上回っていた。一方で「将来の夢や目標を持っていますか」の質問には肯定的に回答する児童の割合が85.7%となっており、全国よりも2.6%上回る結果となった。

今後の取組(アクションプラン)

【国語】

1. 「書く」習慣の定着: 日々の授業で、単元ごとに自分の考え方や要約を短文でも良いのでノートに書く。
2. 根拠に基づいた記述の練習: 記述式問題に取り組む際、ただ解答をさせるだけでなく、「なぜそう考えたか、その根拠はどこにあるか」を声に出して説明する。
3. 相互評価の導入: 児童同士で記述した文章を読み合い、良い点や改善点を指摘し合うことで、多角的な視点から文章構成や表現力を磨く。

【算数】

1. 「算数ノート」の活用: 児童に「考え方の過程を絵や図、言葉で説明する欄」を設けた算数ノートを作成させ、記述する。
2. ペアでの問題解決: 記述式の問題に取り組む際、ペアやグループで話し合い、自分の考え方を相手に説明する。
3. 図や表を用いた視覚化: 分数の問題（「3 (2)」や「3 (3)」など）では、数直線や図を使って説明する。

【理科】

1. 「なぜ？」を問いかける授業: 既存の知識や実験結果に対して、「なぜそうなるのだろう？」「他の条件を変えたらどうなるだろう？」といった問い合わせを考える。
2. 仮説を立てる練習: 授業の中で、簡単な実験を行う前に「もし〇〇だったら、どうなるか」という仮説を立てさせ、その理由を説明する。